

歴史街道第8期計画

(平成27年度～平成29年度)

平成27年5月

歴史街道推進協議会

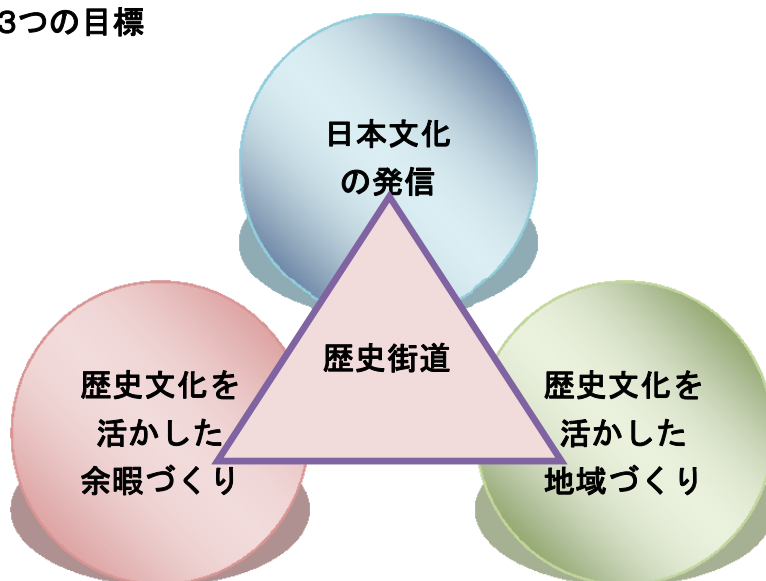
歴史街道メインルートと3つのネットワーク



「歴史街道」では、我が国を代表する数多くの歴史文化資源をわかりやすく紹介していくため、5つの時代別ゾーンを結ぶメインルート(伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸)と、地域の特徴を活かした3つのネットワークを設定しています。

「歴史街道計画」は、これらを舞台に、日本の歴史文化を内外に発信し、我が国の文化戦略の一翼を担おうとするプロジェクトです。

3つの目標



『「歴史街道」づくりの提言』

外国人に「日本について何を知っていますか」と尋ねると、まず返ってくるのは商品と企業の名前です。経済大国の日本としてそれは当然でしょうが、それ以外のことがほとんど知られていないのは寂しいことです。文化や歴史、功績ある人々の名前などがほとんど知られていないのです。

「人間の顔のない経済大国」、「商品を吐き出すブラックボックス」。日本に対するこうした評価は正しいものではありませんが、私たち日本人もこれまでは、自国の文化や伝統、こころや生活感覚を世界に知らせようという意識が薄かったことも事実でしょう。いや今も、日本の文化やこころを知らせるのは、貿易摩擦のため、よりよい経済関係を深めるため、つまり経済が目的で文化やこころの問題はそのための手段という気持ちがあるのではないのでしょうか。

さらにいえば、私たち日本人自身も、物質的な豊かさ、物理的環境の快適さや便利さを追い求めるのに忙しく、その根底にある日本の文化や伝統や特有の発想について考える余裕を失っているくらいがあるのではないのでしょうか。

今や日本は、世界の16%もの生産力を持ち、世界の総輸出の5%にも当たる貿易黒字を計上し、世界中の貯蓄の半分以上を占める巨大な経済力をもつようになっています。日本の経済は、私たちの実感をはるかに超えて、国際化し巨大化しているのです。このままでは日本は「金儲けにしか関心のない国」という評価が定着してしまう恐れがあります。

このような現実を超え、日本人自身も外国の人々にも、長い歴史に培われた日本の文化とこころを深く認識するような実効ある具体的な計画を考える必要があると考えます。

そこで、私たちが着目したのは、日本の文化、日本人のこころが形成された過程を、その現場において見聞することです。

独特の風土を持ったこの国土で生まれた日本文化には、特有の性格があります。同時に世界にも類例のないこの国土の文明的位置の故に、東洋と西洋の文明を巧みに吸収し消化することもできました。現代の日本の文化と日本人のこころは、そうした歴史の成果として築かれたものです。従ってこれを正しく認識し深く理解するためには、歴史現場においてそれぞれの時代の文物と環境を味わうことが大切でしょう。

文化を知りこころを解するためには、書かれた文章を覚え、並べられた事物を知るだけでは充分ではありません。体験の記憶と自ら試みた実感をもって親しみひたるのでなければ、本当の文化を知ることにはならないのではないかと思います。

このような考え方から、私たちは日本の文化と歴史を体験し実感する旅筋、いわば「歴史を楽しむルート」としての「歴史街道」の開発整備を提唱するものです。

幸いにして日本では、主要な歴史の現場を、ほぼ歴史年代の順に訪ねる旅をすることができます。それは、さほど遠い距離でもなくあまり長い時間をかけることもない範囲にあります。つまり、「勤勉に楽しむ」日本人の性格にも、短い日数で日本を訪れる外国人にも、無理なく巡れるルートとなり得るのです。

この「歴史街道」構想は、日本人のこころに伝えられてきた「生なり」の文化の源流というべき神話の地・伊勢からはじまり、古代から中世にかけての三つの都一飛鳥、奈良、京都一とその近郊を巡り、秀吉以降の商人文化の中心地「大阪」、明治以降の国際交流を象徴する神戸を結ぶこととなります。

勿論、日本文化の最も古い歴史をもつこの地域には、多くの歴史文物があり、伝統的な行事や芸術技能が保たれております。また、隠された文物や知られざるところの跡も多いことでしょう。さらにこれから追加すべき「もてなし」のハードやソフトの開発も重要になるでしょう。新しい技術や思想を吸収し活用してきた日本の歴史そのままに、高度な技術や斬新な発想を導入しなければならないことも多いに違いありません。快適な移動方法や多彩な楽しみの導入も大切です。「歴史街道」は、常に開発され更新される知的な観光ルートでなければならないと思うからです。

文化は突如として興るものではありません。伝統を大切にしない文化が長く栄えたためしはなく、新しい技術と発想の導入なしに長く保たれた伝統もまたありません。豊かな国になった日本は、その歴史とところに根づいた文化を、歴史の現場から世界に発信する必要があります。私たちは、この「歴史街道」を現代に生かすことが、二千年の日本の歴史に新しい楽しみを加えると共に、百年後、千年後に現代の英知と繁栄を伝える試みでもあることを願うものです。

今、日本では新しい街づくり、新しい国際交流の場の建設が進められていますが、同時に先人から受け継いだ歴史の現場を、新たな知的興奮の舞台にすることも大切ではないでしょうか。

1988年3月

世界を考える京都座会

| | | |
|-------|------|-------|
| 松下幸之助 | 天谷直弘 | 飯田経夫 |
| 石井威望 | 牛尾治朗 | 加藤 寛 |
| 高坂正堯 | 堺屋太一 | 斎藤精一郎 |
| 広中平祐 | 山本七平 | 渡部昇一 |

はじめに

日本文化の発信と継承を目的とした「世界を考える京都座会」の「歴史街道」構想の提言（昭和63年3月）を受け、平成3年に歴史街道推進協議会（以下、協議会）を発足、以来3年毎、中期計画を策定し、官民が広域的に連携しながら各種事業を推進してきた。本書はその「第8期計画」であり、平成27年度から平成29年度までの事業の方向性を示したものである。

1. 第7期計画の総括

まず、第8期計画の策定にあたって、第7期計画（平成24年度～平成26年度）の成果と課題を確認した。第7期計画では、広報活動（一般広報活動、提案受託型広報活動、次世代育成型広報活動、個人会員のネットワークづくり）、歴史文化を活かした余暇づくり、歴史文化を活かした地域づくりを3つの柱とし各種事業を実施した。

第7期計画の主な成果と課題は以下の通りである。

<成果>

（1）広域官民連携事業の充実強化

地域主導の事業推進（伊勢・飛鳥間連携、飛鳥・奈良・京都間連携等）、新たな切り口による地域連携の構築（京都・大阪間連携、北近畿・琵琶湖エリア連携等）、関係団体との連携による事業推進（紀伊半島のネットワーク等、世界文化遺産間の地域連携等）を図り広域官民連携事業を実体化。

（2）理念普及型事業の創造

日本文化体感プログラム（提案受託型広報活動、次世代育成型広報活動）の立上げ他。

（3）他団体連携型事業の推進

「世界文化遺産」地域連携会議への協力、関西広域連合、パナソニック映像、南都銀行、近鉄文化サロン等、会員企業・団体等との協働プロジェクトの開始。

詳細は第I部に第7期計画の活動成果として報告する。

<課題>

（1）歴史街道の基本理念やコンセプトに沿った「歴史街道ならではの」事業を展開するためのメインルート事業とネットワーク事業との相互補完、相互連携の強化。

（2）理念普及事業としての「日本文化体感プログラム」（企業研修プログラム、教育プログラム）の定着化。

（3）個人応援団としての「歴史街道倶楽部」の補強と広報事業の一層の強化。

（4）組織体制の強化。（財政基盤強化のための会員の確保、出向・プロパー職員の確保・育成）。

第8期計画ではこれらの課題を関係各位の協力を得ながら着実に改善・強化することで歴史街道の存在価値をさらに高めていきたいと考えている。

2. 第8期計画策定のプロセス

協議会の基本理念、事業構想、行動計画を再確認し、事業戦略（事業の定義、事業目標、事業方針）について専門部会、幹事会等で審議、全体会議で検討案、最終案を報告。第8期計画策定の基本方向（理念・構想・戦略）を確認した後、個別プロジェクトの再点検を行い事業計画にとりまとめた。平成27年度の理事会、総会で決議を経て確定した。

3. 第8期計画の構成

- (1) 基本理念、行動計画（3つの目標「日本文化の発信」「歴史文化を活かした余暇づくり」「歴史文化を活かした地域づくり」）の堅持。
- (2) 3つの目標を達成するため、地域事業、理念普及事業、および広報事業を推進。
- (3) 第7期計画の課題、第8期計画の目標（3年後のあるべき姿）、目標達成に向けた重点施策の明確化。
- (4) 地域事業（メインルート事業、ネットワークエリア事業）、理念普及事業（日本文化体感プログラム）、広報事業（一般広報活動、歴史街道倶楽部事業）、各事業計画の概要。

* 第7期計画からの主な変更点

| 3つの目標と各事業 | | |
|-------------------|--|--------------------------------|
| 第7期計画 | | 第8期計画 |
| 日本文化の発信 (広報活動) | 一般広報活動 | 広報事業 (一般広報活動、歴史街道倶楽部事業) |
| | 歴史街道倶楽部事業 提案受託型広報活動 (企業研修プログラム) 次世代育成型広報活動 (教育プログラム) | |
| 歴史文化を活かした余暇づくり | メインルート事業 ネットワークエリア事業 | 地域事業 (メインルート事業、ネットワークエリア事業) |
| 歴史文化を活かした地域づくり | メインルート事業 ネットワークエリア事業 | |

- ・新たに企業研修プログラム、教育プログラムを理念普及事業と位置づけ、育成・強化する。
- ・メインルート事業、ネットワークエリア事業の推進エリアを明確化し、地域事業として連携を強化する。

4. 第8期計画の総括目標

(1) 歴史街道の存在価値を示す。

歴史街道推進協議会は、近畿2府6県（福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）に広がるルートやエリアにおいて、それぞれの地域に伝えられた数多くの歴史文化資源を活用して、日本の歴史文化を内外にわかりやすく紹介していく活動を四半世紀に渡り続けてきた。

歴史街道の存在価値とは、これまでに蓄積したノウハウや多様なネットワークを駆使した企画提案力、事業を通じて獲得した歴史街道への信頼感、そして、これからも他団体からの連携のメリットや来訪者・地域住民、支援協力者にとって活用価値のある歴史街道であり続けることである。

(2) グローバル対応力の強化。

東京オリンピック・パラリンピックの招致が決定して以来、これを千載一遇の機会として日本の観光振興についての様々な議論が活発化している。政府は訪日プロモーションの強化、外国人旅行者の受入環境整備などを国の成長戦略の柱の一つとして推進することを発表した。その中で関西の強みである「歴史の深み」を活かし、日本の歴史文化を内外に発信する役割を果たしてきた歴史街道推進協議会はグローバルな対応力を強化することにより、2020（平成32）年への布石を打たなければならない。

協議会でもグローバルイベントへの対応を基本政策の一つに置き、各団体と連携・協力しながら具体的なプランを実行したいと考えている。

引き続き、歴史街道推進協議会の活動に対し、会員の皆様並びに関係各位のご協力、ご支援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

平成27年5月
歴史街道推進協議会